

Y10b オンデマンド授業を用いた市民天文学：GALAXY CRUISE 銀河分類への貢献

新居 舜 (名古屋大学)

市民天文学は、非専門家が天文学の研究に貢献する機会を広く提供する分野で、インターネットの普及や宇宙科学技術への関心の高まりに伴って日々発展している。本発表では、講演者が非常勤講師として担当した2024年度拓殖大学のオンデマンド授業「天文学 A: 太陽系のしくみ」「天文学 B: 宇宙のしくみ」の期末レポート課題を通じた市民天文学の結果を報告する。授業では、銀河分類プロジェクト GALAXY CRUISE 第2シーズン Deep Quest を期末課題に採用した。受講者は理系文系問わず全学年におよび、約600名のうち約8割（586名）が課題を提出し、分類総数は38万9,073回に達した。最多分類者は6,078個、平均664個、中央値516個であった。分類数に応じた成績評価が学生の積極的な参加を促進した。銀河の衝突・合体履歴の解明は宇宙進化理解に不可欠であり、機械学習活用のためにも人の目による質の高い分類が重要とされる。今回、オンデマンド教育と学術研究を橋渡しする新たな試みの有効性が示され、今後の授業でも市民天文学ツール活用が期待される。